

高速道路の新設等に要する費用の縮減に係る助成制度の成果

資料-3

これまでに認定された新技術案件(全13案件)のうち以下の3案件は、高速道路会社によって標準化され、その普及が図られている。

※標準化とは、性能規定のための標準仕様書や金額算出のための標準の積算基準を作成すること

- ①「トンネル照明設備における新型照明器具の開発」
- ②「トンネル用多孔陶管における新たな設置方法の開発」
- ③「中央分離帯防護柵更新工事における新工法の採用」

案件	トンネル数 (チューブ)	トンネル延長 (km)
①新型照明	190	235
②多孔陶管	136	183

案件	延長 (km)
③中央分離帯防護柵	26

これまでに認定された以下の資材の調達工夫は、多くの工事で活用されている。

- ①「品質管理を工夫した資材の直接調達」
- ②「コストオン方式を活用した資材調達の工夫」

案件	活用した工事件数 (件)	主な資材
①直接調達	34	防護柵・トンネル照明器具
②コストオン	58	トンネル照明器具・遮音板・防護柵

助成委員会の審議内容の社内周知状況例

①助成委員会の審議内容が機構ホームページで公表された時は、その都度社内関係部署へ周知

②社内説明会などにより、これまでに審議された案件や有効期間、助成金交付手続きを説明

※説明会資料の例

資料 1-1

○インセンティブ認定申請手続きについて

※原則として、インセンティブ認定申請の際に縮減費用削減根拠の作成・整理を行うものとする。

みなべ～南紀田辺間の現場の特徴②

- ① 全掘削土量約120万㎡のうち、約80万㎡を工区外へ捨土する区間
- ② 強酸性(PH2.7～3.0)の硬岩掘削土が発生
特性・植物の生育に適さない
・風化しづらい

酸性土壌の出現状況 (小澤1988, 岩永・藤原・倉井1992より作図)

酸性土壌の出現範囲

強酸性の硬岩掘削土を防塵、防草対策に使用することを検討

強酸性の硬岩掘削土を防塵、防草対策に使用することへの課題

- ① 地元との協議が必要
- ② 強酸性の硬岩掘削土の周辺環境への影響

P2

③工事発注計画時にコスト縮減内容を確認